

2022年12月4日（日）開催 ぐんま認知症アカデミー第17回冬の研修会 報告

シンポジウム1「知らなきヤバイ 認知症初期集中支援チーム」では、まず東京都健康長寿医療センターの栗田圭一先生より、認知症初期集中支援チームの設立やその後の経過に関してご講演いただきました。初期集中支援チームの課題として、「地域包括支援センターの相談機能との違いがわかりにくい」、「困難事例の対応など“認知症初期”という事業の名称から想像する役割と異なっている」などが挙げられています。しかし、「地域包括支援センターとの違いがわかりにくい」という点については、地域包括支援センターと医療との連携強化につながる、「“認知症初期”という事業の名称から想像する役割と異なっている」という点については、それだけ、地域で困っている人がいるとプラスに考え、更なる質の向上や理解につなげていく必要があります。また独居高齢者が多い地域での調査結果より、制度があるだけでは、支援に結びつかないケースがあることが明らかになっています。そのため、健康なうちから何でも相談できる居場所等を作るなど、普段からのネットワーク作りが必要です。また、認知症初期集中支援チームが対象者を医療・介護に繋げれば終わりではなく、コーディネーション機能を発揮して、包括的な支援を行うことが望まれ、そのことが、共生社会の実現につながります。



東京都健康長寿医療センター 栗田圭一先生

講演の後、群馬県・前橋市・桐生・みどり市から現状を報告いただきました。討論では、地域支援事業として、住民を巻き込んで、地域作りへ繋げるための認知症初期集中支援チームのあり方が議論されました。今後の課題として、チーム員の人材育成や事業内容や対象の明確化、周知等が挙げられました。



在宅医療介護連携センターきりゅう 小川貴之様

参考資料

- ・東京都：認知症とともに暮らせる社会に向けて—地域づくりの手引き— 2020 年度改訂版。
https://www.fukushihoken.metro.tokyo.lg.jp/zaishien/ninchishou_navi/torikumi/manual_text/pdf/chiiki_tebiki.pdf
- ・東京都：認知症とともに暮らせる社会に向けて コーディネーションとネットワーキングの手引。
https://www.fukushihoken.metro.tokyo.lg.jp/zaishien/ninchishou_navi/torikumi/jigyou/caremodel/pdf/tebiki.pdf

シンポジウム 2「IT/機器を活用したケア」では、各演者から、電子版包括的 BPSD ケアシステム、眠り SCAN、センサー・カメラについて、機能や使用状況の紹介がありました。討論では、機器を使いこなす職員のスキルの必要性や機器やカメラに対する意識や慣れなどは、世代によって変化しているため、認識の変化に合わせて新たな機器を活用し、ケアの効率化や質の向上につなげる必要があることが示されました。



高崎健康福祉大学 原田欣宏先生